

運動会を見つめ直す〜人と人をつないで百年〜

はじめに：

大正九年（一九二〇年）第
一回の入山辺村（当時）「大
運動会」が開催された。

若者や男衆がいなかった戦時中
でも、住民が一堂に会する重
要な行事とし、90回の運動会
を開催し歴史をつないできた。

休止の主な理由は天候不良、
選挙や公民館改修工事等で会
場確保が困難な状況であった。

戦前・戦中は「戦意高揚や
お国の為に」と男衆や若者が
いなくなっても年寄りや女衆
が頑張つてつないだ。戦後は

「戦後復興の為に」と団結し
た。松本市への合併・高度
経済成長時代を迎えると地
域に急激な変化が訪れ、若
者たちは集団就職で故郷を
離れ、人口流出が始まって
きた。その後は、進学の為

にと故郷を離れ多くの人々
が、大都市へと流出してゆ
く姿を見ながらも、住民の
大切な交流の場として運動
会は開かれてきた。

館報
いりやま

令和2年11月1日現在

世帯数	851戸
男	937人
女	975人
総人口	1,912人



人々が集まり苦しい時代を
共有しながら連帯し入山辺を
守り発展させることを願って
頑張ってきた象徴としての
運動会だったといつてよい
と思う。

100年続く地区大運動会：

100歳の方に話を聞いた。
運動会は「わくわくし、楽し
かった」「前日から準備した」
「当日は、踊りを踊りました」
参加者も主催側も楽しかった
と。思い出はたくさんあるよ
うでした。

いまは、ワクワク感や、楽
しいというより「義務感や、
やらされ感」役員だから仕方
ないときらめてやっている
のでしょうか。

誰も、楽しくないんですよ
ね。

運動会は人が集まり交流し、
入山辺最大の情報交換の場だ
であった。今は、スマホの中
にある。

時代が違うから仕方ない、
確かにそのとおりである。



昭和29年運動会 小学生100m走

人が集まり何かを楽しむ事
より、スマートフォンに向か
い、個人で楽しむことが楽し
いと感じる人たちが増えてい
る。「そのとおり」否定でき
ません。

でも、今年のコロナ禍の中
で、人々の価値観や見方が少
し変化してきたように思う。
新たな人とのつながりを求め
見直し、作り直そうとしてい
るのを見えませんか。

地域の人々の中でも、子ど
もたちもお年寄りも気にか
け隣近所で見守る姿が見られ
ました。

今年、開催100周年で91
回大会を迎えるはずだった運
動会ですが、コロナウィルス
の世界的大流行で人が集まる
ことが出来なくなり中止とな
りました。しかし、その分考

える時間が与えられました。
今後の事を考える良い時間
です。発想の転換を求められ
る時によい機会として。

運動会の果たしてきた役割：

運動会は今まで、誰も深く
意識してこなかったが、住民
が一堂に会し「なんとなく、
元気と希望をもらえる場であ
る」と過去の館報記事の見直
しや話しを聞く中で感じます。
運動会で住民の多くが集ま
り、何かをやる姿を見たり、
参加することで、明日からの
「生きる希望と勇気を」もらっ
たのではないのでしょうか。

人と人の関係性が希薄に
なっているといわれる時代だ
からこそ、あらためて意味が
出てくるのかもしれないね。

館報編集委員長

朝倉 康直



第90回入山辺地区大運動会



赤羽 貞江さん



赤羽 貞子さん

「長寿!! 百歳のお祝い!!」

今年度100歳になる方々
へお祝いの賞状と記念品が
国・県・市より贈呈されま
した。入山辺地区では5名の
方々が今年度100歳を迎え
ます。

今回は南方町会の赤羽貞子
さんと赤羽貞江さんへのお祝
いへ同行させていただき、写
真の撮影をさせていただきま
した。お二人ともお元気な姿
で賞状と記念品を受け取られ
ていました。今後もお元気に
過ごし、益々のご活躍を期待
しております！

GOTO福祉ひろば



エルダーシステム

令和2年に入り全国的に新型コロナウイルスが猛威を振るい、入山辺地区福祉ひろばでも事業やサークル活動を実施するにあたり対策を施しました。緊急事態宣言の解除を受け、その後のひろば活動をどう行いか地域づくりセンター関係者会議で相談しました。感染対策として、今まで楽しみだった茶話会を行わず、参加者把握・検温・手洗い・マスクの着用・換気の徹底をすることになりました。講師と対面で行う体操などは中止し、4月に導入された「エルダーシステム」を使い、テレビに映し出される映像を見ながら健康体操を行いました。エルダーには、歌・脳トレ・ロコモ予防体操・ゲームなど、たくさんのコンテンツが入っていて、頭と体を鍛えることができます。懐かしい歌を聴くことで、脳が活性化すると聞いたこともあります。プログラムには体操の合間に歌も入り、曲に合わせて口ずさむ皆

さんの顔は
とても生き
生きとして
います。セ
ラバンド・
ダンベル体
操なども
徐々に再開
しています。
エルダーに
初めて参加し、その後、他の
事業にも参加している方々も
います。



サークル活動では、対面で行われる囲碁や健康麻雀の飛沫感染対策として、天井からビニールシートを下げて行っています。地区内のお大工さんや、大勢の方々に協力していただき、今までの活動に近づけることができています。皆とコミュニケーションをとることで心身ともに健康でいられる場所として、福祉ひろばがあります。これからの感染予防対策を十分に行い、「ひろばwithコロナ」を実行していきたいと思っています。こんな状況だからこそ健康のために「GOTO福祉ひろば」です！皆様お待ちしております！

入山辺地区福祉ひろば

専任コーディネーター

矢島 裕子

地域支えあい講座開催

10月26日(月)に第1回入山辺地区地域支えあい講座が開催されました。今回は「withコロナの時代 感染予防で日常を取り戻そう」をテーマに開催されました。まず始めに相澤東病院看護課長の横水さんより新型コロナウイルスの全般的なお話しや手洗い・手指消毒等についてご講演をいただきました。その後実際に手を洗って、洗い残しがどの程度あるのか参加者に機械で見えていただきました。コロナ禍の中で行われている他地区の活動を映像鑑賞した後、意見交換を行いました。意見交換では金井医院副院長の金井先生と松本市医師会医療コーディネーターの岡村さんよりお話しをいただきました。

入山辺公民館
図書入替のお知らせ

10月8日(木)に入山辺公民館図書コーナーの図書入替作業が行われました。図書委員の皆さんがおおよそ500冊ある図書を入れ替えました。福祉ひろばにも図書がありますのでそちらもぜひご覧ください。皆様のご利用お待ちしております。



機械で洗い残しを確認中！

意見交換の中で新型コロナウイルスの影響で外出の機会が減ることによって起こる健康被害についてお話しがありました。地域行事が開催できないことによって地域での人間関係の希薄化や見守りが少なくなることで、健康・認知機能の低下等のリスクもあります。新型コロナウイルスを正しく恐れ、地域活動を再開し、withコロナの時代に感染予防をして皆さんで日常を取り戻していきたいと思います。

修学旅行



山辺小学校
6年生
新井 開晴 君

修学旅行はとても楽しかったです。バスの中ではとても静かに乗るものと思ったら結構みんなしゃべっていて僕も一緒にたくさんしゃべりました。ホテルに向かうとき友達とが恋話しようと言ってきたのでびっくりしました。

登呂遺跡で本当に見つかった土器や古墳はとてもしつかったです。古墳の跡などもあるようです。

東海大学にあるリュウグウノツカイはとても長くて、自分の飼っている犬みたいでした。

三島スカイウォークはとても高くて長くてとても怖かったです。恐竜の頭の骨がありました。伊豆フルーツパークも見学しました。

富士サファリパークはかわいい動物がたくさんいてすごかったです。とても楽しい修学旅行でした。

